

## 沖縄 100 号イモ栽培における高齢者の回想効果

渡辺 憲次

社会福祉法人喜多会 特別養護老人ホーム喜多乃郷  
愛知県名古屋市熱田区一番 2 丁目 12 番 20 号

### Effect of Reminiscence Therapy for the Elderly on Cultivation of Sweet Potato Variety Okinawa 100

Kenji Watanabe

*Kitanosato home for the aged  
2-12-20 Ichiban, Atsuta-ku, Nagoya-shi, Aichi*

**Keywords:** horticulture, food shortage, life history

キーワード: 園芸, 食糧難, 生活史

#### 要 旨

回想法を行う際に、対象者に関わりの深い素材を選ぶことが重要と言われている。高齢者が若い頃馴染み深い植物であったサツマイモを当時と同じ品種に特定して観察、栽培を行った。

その結果、思い出を想起することに繋がる発言がみられ高齢者の過去を知ることが出来た。時代と共に移り変わる園芸品種を対象者に合わせて選定することが回想効果をもたらすことが示唆された。

#### Abstract

When conducting reminiscence therapy, it is deemed important to select materials which are closely related to target patients. A type of sweet potato was selected for elderly patients to take care of and cultivate. It is the same variety as they grew it when they were young and thus feel very close to. As a result, the elderly made some statements which successfully triggered the reminiscence of their past experiences. It was therefore suggested that it can be an effective reminiscing method to select the plant varieties according to the times when the target patients lived in.

#### はじめに

高齢者施設にて生活をする入居者は世代的に戦争体験をした人が多くみられる。その為、戦争による食糧難により学校や自宅の畑で野菜等を育てた経験のある人が多い。特にサツマイモは戦中、戦後と米等の代用食として広く作付けされていたことから、育てた経験のある野菜といえる。このことから、サツマイモを高齢者施設

にて暮らす入居者が作ることは、当時に思い出すことによって自分が生きてきた過去を見つめ直し自己の生活史を再認識出来るのではと考えた。戦争による食糧難を経験した人の体験談や記録記事をみるとサツマイモの思い出や食生活事情は、楽しさや喜びばかりのものではない(菅 1995)。本事例研究では、サツマイモの品種を対象者の馴染み深い時代に照らし合わせて当時と同じ品種を選定することで、より多くの回想効果が得られるのではないかと考えた。その為、特別養護老人ホームの屋上庭園にて回想法を用い、当時と同じサツマイモ品種

受付 2017 年 5 月 9 日 受理 2018 年 3 月 20 日

である沖縄100号を対象者と栽培することによって、活動中の発言を観察し分析して調べてみることにした。

## 方法

### 1. 実施期間

2016年6月から2016年11月までの6か月間に計8回調査を実施した。それ以外にも施設職員が入居者と水やり、観察等、サツマイモと関わっている。

### 2. 調査対象者

対象者はN市内にある特別養護老人ホームに入所する人で、21名を各1回のみ調査した。(平均年齢82.1才標準偏差±8.1,介護度平均3.7男性7人女性14人)。その内で7名の人が興味をもち2~3回の複数回参加した。

### 3. 対象植物

志水らは(2004)活動の中で回想法を用いる際に、快適な気分でいられる可能性をつくる環境や手がかりを用意することは大切な工夫であると示している。その為、入居者の生活史に馴染み深い対象植物として沖縄100号を使用した。沖縄100号は戦中戦後を代表するサツマイモの品種である。昭和9年、沖縄県で育成され、戦中・戦後を通じて全国的に広まり、8万ヘクタールにも達した。サツマイモの外皮は淡紅色、条溝が著しく目立ち外観はよくない。肉色は淡黄色、粘質で食味はよくない(坂井, 1999)とされている。

## 4. 実施方法

### 1) 園芸活動

入居者と園芸療法士と一緒に種芋の植え付け、種芋からの苗取り、畑の耕し、苗植え付け、水やり、収穫、試食等の活動を1回平均20分程度合計8回の活動を行った。参加者は継続的な参加ではなく単回のみ参加である。沖縄100号を育てることでのどのような回想効果を得られるのかを目的とした。サツマイモ栽培では園芸活動に興味のある人しか参加しないが、戦争時や戦後に食べていた品種であることを事前に説明すると、多くの人が参加した。園芸活動の時間帯は当日の気温と施設行事、体調等を考慮して行った。また、試食については施設内の屋内リビングにて現在のイモの味と比べて、味の違いなどの感想を聞き取りを行った。参加者1名につき介護職員兼園芸療法士1名が個別活動にて老人ホーム施設屋上(市街地に立つ7階建て)に案内し、沖縄100号の栽培活動を行った。栽培活動を行う中で参加者の発言からどのような回想に繋がるのかを記録した。

### 2) 記録方法

参加者が活動中に発言した言葉から、回想が含まれた情報を取り出すことを目的とした。テキストマイニング手法、(藤井ほか, 2005)ソフトはユーザーローカルテキストマイニングツールにて実施期間後に分析を行った。そこから頻度の高い名詞、動詞、形容詞といった単語をスコア化しその単語の特徴を表した。また、単語の

出現パターンが似ているものを単語ペアとして抽出してそこから読み取れる感情を分析した。沖縄100号の栽培において対象者がどれほどの興味と回想効果を得たのかを知る目的として、活動中の様子観察から回想内容を得るのに適した個人継続記録表の評価項目を用いた(野村, 1998)。今回の実施方法では継続した記録を行っていない為、項目のみ用いている。22名の回想を観察記録した項目はa)参加意欲・積極性、b)回想・発言内容の的確さと量、c)回想・発言内容の質、d)喜び楽しみ(笑顔)などの満足度、の4項目を0~3の4段階に分けて記録し評価した。

## 5. 結果

### 1) テキストマイニング分析(図1~4)

#### (1) 出現頻度の高い名詞

「なかった」「サツマイモ」「護国」「子供」「戦時中」という単語が上位にみられた。出現は少ないが「護国」「戦時中」という言葉のスコアが高くみられた。護国とは沖縄100号とほぼ同時期に栽培されていたサツマイモの品種である(図1)。

#### (2) 出現頻度の高い動詞

「食べる」「作る」「とる」「言う」「ふかす」という単語が上位にみられた。「ふかす」という言葉についてはスコアが際立っていた(図2)。

#### (3) 出現頻度の高い形容詞

「美味しい」「大きい」「甘い」「多い」「細い」という単語が多くみられた。「細長い」という単語についてはスコアが高くみられた。「まずい」「水っぽい」などの否定的な単語は少なかった(図3)。

#### (4) 共起回数が多く見られた単語ペア

単語の出現パターンが似た関連性が高いものを単語ペアとして分析した。共起回数が多くみられた単語ペアの中では「イモ・甘い」の組み合わせが11回と最も多くみられ「イモ・食べる」「甘い・種類」「おやつ・サツマイモ」「なかった・食べる」が続いてみられた(図4)。

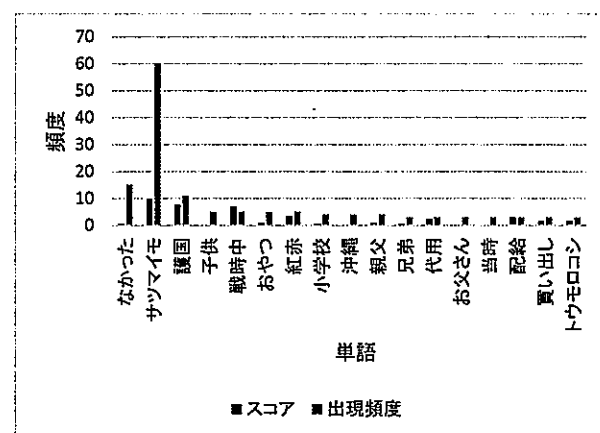


図1. 出現頻度の高い名詞 (n=21).

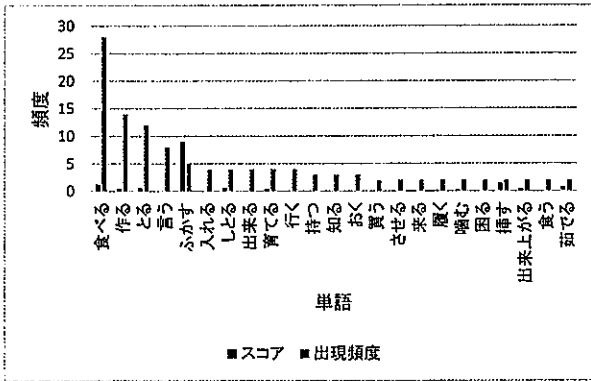


図 2. 出現頻度の高い動詞 (n=21).

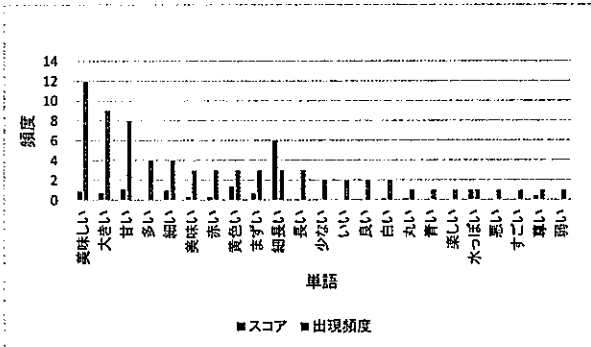


図 3. 出現頻度の高い形容詞 (n=21).

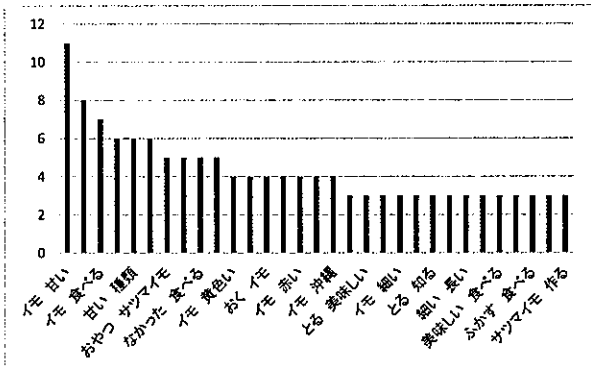


図 4. 共起回数が多く見られた単語ペア (n=21).

## 2) 個人記録表分析

### (1) 参加意欲・積極性

参加拒否は 0%, 消極的な参加, 刺激 (言葉かけ) が必要な人が 43%, 刺激によって活発に参加 19%, 刺激なしでも活発な参加が 38%であった (図 5).

### (2) 回想・発言内容の的確さと量

回答なしが 24%, 不適確あるいは量が少ないは 29%, 的確だが繰り返しが多い 14%, 的確で相当な回想量が 33%みられた (図 6).

### (3) 回想・発言内容の質

否定的, 拒否的は 5%, 情緒的表現を含まない 43%, 時に情緒的表現を含む 14%, 情緒的表現を多く含むは 38%みられた (図 7).

### (4) 喜び楽しみ (笑顔) などの満足度

まったく楽しんでいないのは 18%, 時折楽しんでいるのは 27%, 大部分楽しんでいるのは 18%, 一貫して楽しんでいるのは 37%であった (図 8).

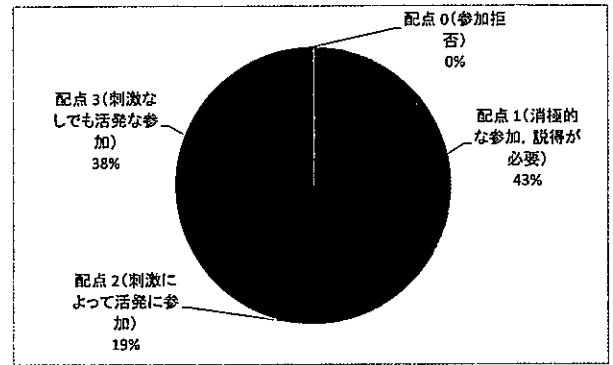


図 5. 参加意欲・積極性 (n=21).

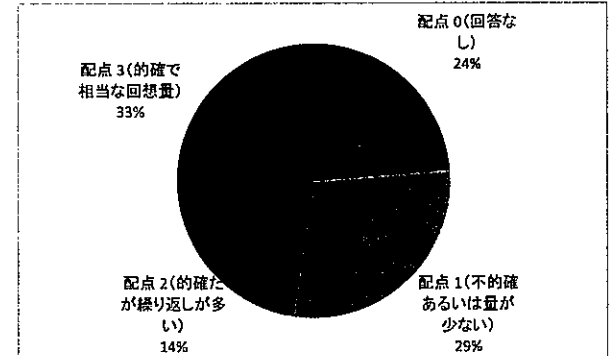


図 6. 回想・発言内容の的確さと量 (n=21).

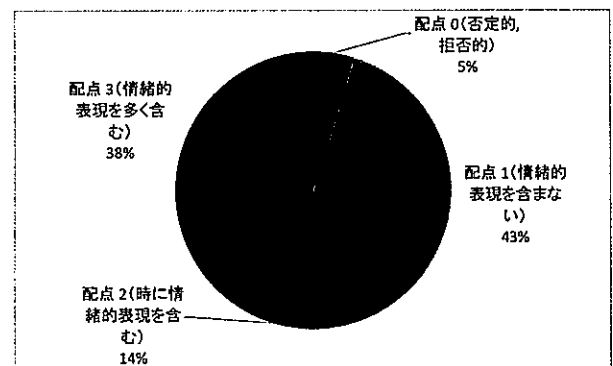


図 7. 回想・発言内容の質 (n=21).

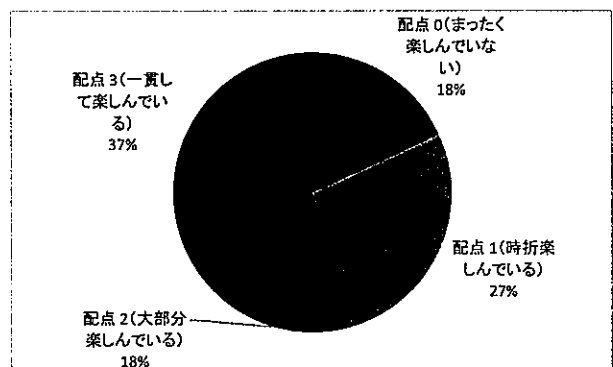


図 8. 喜び楽しみ (笑顔) などの満足度 (n=21).

## 考察

本事例研究では, 高齢者の園芸活動内容に当時の品種である沖縄 100 号を栽培することで回想につながる様子が確認出来た. 自分の生活史に馴染み深いイモを栽培することは高齢者の園芸に対する興味を高めた. また, 過去の思い出を人に話すことによって自分史の再確認に

つながる様子もみられた。

要因として沖縄100号が当時の食糧難であった時代の代用食として広く栽培されていたこともあるが、沖縄100号イモの情報を事前に参加者に伝えたことも含まれる。

### 1. テキストマイニング分析

名詞、動詞、形容詞、それぞれの頻度が高い単語を見ると当時の食生活が貧しく沖縄100号の味や様子を表すものが多くみられた。特にサツマイモは米の代用食として現在よりも身近なものであったことを話す人が多くみられた。また、サツマイモ栽培から他の園芸作物にも思い出が繋がり、食糧難を自給自足で生活してきたことからの回想の広がりが見られた。食糧不足という時代背景からサツマイモが貴重な食物であったことから対象者の興味と回想の反応はあった。苗取りから植え付け水やりといった作業に参加した人は職員からの声掛けがなくても回想につながる発言がみられた。試食の感想においては、「うん、うん」と頷くのみであったり、短く感想だけを話す等、当時を思い出し、感情を表面化しない様子もあり本解析では表示できない側面もあることが示唆された。また、テキストマイニングの出現回数では表せない、話す速さや声の大きさも感情による変化がみられた。これらは、分析には影響されないために今後の課題となった。

#### 1) 出現頻度の高い名詞

「戦時中は食べ物が無いから大量に出来上がるイモの護国が出来た」「最初は紅赤を育てていたが大量に作らなければいけなかった、カボチャのような形の護国が出来上がった」等、当時栽培していたサツマイモの品種まで覚えている人や専門的に農業研究に携わっていた人からは、詳細な社会的背景を含めた回想がみられた。普段の会話からは聞き取れない参加者の一面をみることが出来た。「戦時中」という言葉については、食糧不足という回想に繋がる話が多く、食糧が不足していたことについての単語が多くあった。沖縄100号の形状は、条溝があり視覚に特徴なことから、回想に繋がっていたと考える。

#### 2) 出現頻度の高い動詞

言葉を見ると「ふかしイモがほとんど、むかしは一番簡単だったから」「三食中1回はイモだった、ふかして食べた」等がみられた。調理についても手間や工夫がかけられなかった当時の世相がみられた。沖縄100号の名前は知らなくても勤労奉仕の手伝いや尋常小学校で作っていたことがあるなど、戦争体験による回想がみられた。動詞の中でも、ふかすという単語はスコアが際立って大きく当時は油の入手も限られていたことから時代背景にあった動詞であることが考えられる。

#### 3) 出現頻度の高い形容詞

「昔のイモは長細かったよ」「護国という大きいイモと紅赤という細くて長いイモがあったね」など具体的な

説明がみられた。沖縄100号収穫時は形状や大きさ、味の感想など、自分の目で見て、手に取り触って当時の芋と現在流通しているイモの品種との違い等を形容詞の単語として多く引き出されていた。

### 4) 共起回数が多く見られた単語ペア

「イモ・護国」が6回、「紅赤・護国」が3回みられたようにサツマイモの当時栽培されていた品種名を明確に回想する参加者もいた。その人はサツマイモを実際に育てた農家の人や県農場試験所で勤務する人たちであった。留意すべき点として「とる・イモ」にある「とる」とは収穫する「とる」ではなく「知っとる」と使われており、この地方の言葉の語尾に良く使用される言葉である。「護国も知っとる、ちょっと黄色いイモだった」等の使い方である。一般的な戦時中のサツマイモのネガティブなイメージを表す共起は「まずい・イモ」(2回)と少なく、良い思い出としての共起が多いことが考えられた。

### 2. 個人記録表の分析

#### 1) 参加意欲・積極性

「刺激(言葉かけ)によって活発に参加」「刺激なしでも活発な参加」を合わせると57%と半数以上の人が園芸作業に取り組んだ。その中でも7名が興味をもち、その後も2~3回活動に参加した。戦争による食糧不足を体験した人は、サツマイモを主食とし自分で栽培した人も多い。その為、当時の品種である沖縄100号を説明すると興味を示す様子が見られた。消極的とはいえ参加拒否者は0人という結果になった。「刺激(言葉かけ)によって活発に参加」の19%は沖縄100号について興味を持ち活発に参加した人であることから対象植物を沖縄100号とした一定の効果があつたと考察する。

#### 2) 回想発言内容的確さと量

発言はあるが回想効果がみられない対象者が半数あつた。園芸作業等には参加したが当時の事を覚えていなかった等、回想する発言をしなかった人である。発言内容もイモの回想から当時の懐かしい思い出が広がり、自分の家族や当時の生活風習を話すことが多かった。サツマイモという媒体が穀物であることから「代用食にしてお米の代わりにして食べた」等、調理法や配給制度についての発言が多かった。当時の食生活が貧しかったことから、身近な食べ物であったサツマイモは当時を回想するきっかけとなることが考えられる。

#### 3) 回想・発言内容の質

参加したが、遠慮した様子や否定的、昔の苦勞を回想することに拒否的な発言は5%あつた。また、感情を表出する等の情緒的表現を含めない割合は43%と多かった。これは回想・発言内容的確さと量の項目での回答なし(回想発言は見られなかった)と答えた人を含んでいる。時に情緒表現を含む割合は14%、情緒的表現を多く含む割合は38%多くみられた。ほとんどの参加者が当時サツマイモ作りに関わっていたことが発言内容

から得られた。回想発言があった人は、人生の中で一番苦労した時代ということもあり詳細な家庭環境や家族の記憶を思い出し、忘れがちな自分自身の生活史を園芸療法士に話すことで再認識したことが感じられた。

#### 4) 喜び楽しみ(笑顔)

配点1~3までの楽しんでいる人の割合は82%と多くみられた。回想発言がない対象者においても昔の品種である沖縄100号に興味を持つ人が多かったからである。「何でも戦時は美味しかった」と食糧不足を回想される人があった。つらい体験をしたが時間の経過と共に懐かしそうに笑って話す参加者も多くいた。反対にまったく楽しんでいない参加者は早々に活動を拒否する人もみられた。現在のサツマイモと評価して味の相違はあるのかという点においても生育段階から興味や楽しみをもつ参加者がいた。味に関しては予想に反して美味しいと話す人が多く、懐かしいサツマイモを味わう様子がみられた。食したイモの形状や味の感覚から回想が結びついたことは、戦時の食糧難を経験したことがいえる。

#### まとめ

園芸作業を用いた回想法については、田崎が(2006)園芸療法に回想法を取り入れるには、対象者となる人の思い出のある植物を用いて、昔ながらの植栽方法で園芸作業を行うと述べているが本研究も対象者にとって思い出のある植物を用い、品種も当時のものに特定することで回想効果が相乗してみられた。今回の事例研究によって高齢者世代に馴染深い対象植物である沖縄100号を育てたことは記憶を呼び起こすきっかけと楽しみを与えることが確認出来た。また、園芸活動に回想法を用いることについては園芸の文化史や対象者の歴史的な背景を知ることが重要であることが考察できた。しかし、当時の100号イモと現代のイモとの回想の比較を実験していないので回想の効果がどれほどの程度かは不明であり研究そのものの限界がみられた。また、世代が同じであっても住んでいた地域によって流通していた品種も異なる場合がある為に対象者を調査することも重要である。今後の課題として現代の品種と対象者の世代に合わせた当時の品種をより多く比較研究することで回想法を取り入れた園芸作業の効果を検証していきたいと考える。

#### 謝辞

日本いも類研究会、井上浩氏に協力を頂き農業生物資源ゾーンバンク事業にて沖縄100号イモの入手を行った。感謝の意を表す。

#### 引用文献

藤井美和・小林考司・李政元：福祉・心理・看護のテキストマイニング入門。pp. 10.中央法規出版。2005。

野村豊子：回想法とライフレビュー。pp. 48-49. 中央法規出版。1998。

坂井健吉：ものと人間の文化史 90・さつまいも。pp. 10-16. 財団法人法政大学出版局。1999

志村ゆず・鈴木正典編：写真でみせる回想法。p. p97. 弘文堂。2004。

菅 淑江：戦時下における食生活 中国・四国地区在住高齢者の聞き取りによる。中国短期大学紀要 26:67-81, 1995。

田崎 史江：バイオメカニズム学会誌 30 : 59-65, 2006。